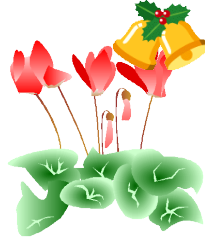


# 架け橋



発行 上都賀教育事務所ふれあい学習課  
鹿沼市今宮町 1664-1  
TEL:0289(62)7167 FAX(62)0148  
Email:kamitsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

第1号(平成30年11月)

今年度の社会教育主事講習は宇都宮大学にて開講され、上都賀地区からは14名の先生が受講されました。講習をふりかえり、感じたことや思っていることなどについて投稿いただきましたので、ご紹介いたします。

## 『社会教育主事講習を終えて』



### 小高 勝則（鹿沼市立西小学校）

今回、社会教育主事講習を受けさせていただき、少し自分の視野が広がったように感じています。講習が始まった頃は不安しかありませんでしたが、終了する頃には、もっと学びたいと感じていました。那須の宿泊研修の前に宇都宮大学の廣瀬先生がおっしゃった「一つだけ守って欲しい。みんな、仲良くやれ。」という言葉は、今でも私の心に残っています。その一言には、他者の人格や知識に敬意をもつ、他者の意見を傾聴する、熟議を重ねてプロセスを大切にするといった、社会教育の本質が込められているように感じました。人とのつながりを大切にして、地域作りに学校がどう貢献できるか、今後の実践にいかしていきたいと思えます。

## 『社会教育主事講習を終えて』



### 川島 佑（鹿沼市立津田小学校）

本講習の内容は、自分にとって新鮮で、教員としての視野を広げることができました。私が印象に残った言葉の一つに、「人は幸せになるために学ぶ。」という言葉があります。人は学びを通して自己実現をするための資質や能力を高め、それが人生を豊かにし、幸せになることができるのです。社会教育はそんな人生を幸せにするための手助けになる教育であると感じました。

学校教育の視点では、学校だけでなく地域と共に子ども達を育てていくことが大切であることを学びました。地域の将来を担う人材の育成のためには、学校を中心に子ども達を通じて大人同士がつながり、地域の教育力を高めていくことが重要になります。学校や地域という垣根を越え、共に協働することができる信頼関係の構築のためには、相手への敬意を忘れないことが大切だと思いました。まずは小さなことからコツコツと、気持ちのよいあいさつからつながり作りを始めてみようと思えます。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

## 『講習を通して学んだこと』



### 宇賀神 孝文（鹿沼市立久我小学校）

今回の講習では、「つながり」の大切さを学ぶことができました。講習により子どもと大人、大人と大人のつながりを大切にして行かなければならないという視点をもつことができました。特に大人をつながりをつくっていくことが、学校の課題を解決していくことになり、そのことが最終的には地域づくりになるという考えを学ぶことができました。人と人がつながるためには、「あいさつ」がとても重要となってきます。子どもたちには、今まで以上にあいさつの大切さを伝えると共に、私も笑顔で様々な人とあいさつをかわし、つながりをつくっていききたいと思っています。これからもつながりを大切にして、学校教育に励んでいきます。

## 『社会教育主事講習を終えて』



### 大類 忠（鹿沼市立南摩小学校）

今回、社会教育主事講習を受講する機会をいただきました。いろいろな講義で講師の先生方の話を聞いたり演習で資料を読んだりしていくと、学校教育は学校だけでは成り立たず地域の力が必要になってくること人と人とのつながりを作ることが地域づくりにつながることで、地域づくりのために社会教育主事の役割がとても重要であることなどを学びました。人々が自ら学びたい、何かをしたいと思うことが地域を支える原動力となり、その地域にある学校の教育力の向上にもつながってくるので、学校と地域、子どもたちと地域の人たちなどのいろいろなつながりを築いていくことに、積極的に関わっていききたいと思いました。

## 『社会教育主事講習で学んだこと』

齊藤 彩水（鹿沼市立粕尾小学校）



社会教育主事講習の講師の方々は、それぞれの道への熱き思いがある方ばかりで、多くの言葉や考えを学ぶことができました。講義の中で、「子どもの教育は学校だけではできない。」「学社融合は流行遅れ！時代はもう、学社一体である。」という言葉が特に印象に残っています。少子高齢化や人口減少が進み、親や学校のみで子どもを教育することが厳しくなっている現代は、教員が率先して地域の人との関わりを創り出し、学校と地域が一体となって子どもを育てていくことが重要なのだと教えていただきました。今回の講習では、行政の方や異校種の先生方と意見交換をすることができ、たくさんの刺激を受けることができました。

今後は講習で学んだ、人とのつながりを大切にしながら、学校と地域の架け橋になりたいです。

## 『社会教育の重要性を学んだ21日間』

古平真一郎（鹿沼市立北犬飼中学校）



1学期末から夏休みにかけての21日間。講習が始まる前は、多くの不安でいっぱいだった。しかし今思えば、普段の生活では経験できないものを経験でき、濃密な時間を過ごすことができた。

講習を通して一番大きく変わったのは、「教育に対する価値観」である。

「教育とは、学校教育だけでは、十分に成り立つものではない。学校、家庭、地域が連携して取り組んでいくことで充実が図られる。」

講習を通して、地域力を育む社会教育はとても重要だということがわかった。北犬飼中学校では平成31年度からコミュニティスクールとして活動が行われていく。この講習で得た経験を生かして、まずは自分のできることから始めて行きたい。

## 『新しい価値観に出会えた社会教育主事講習』

渡辺 聡（日光市立今市第二小学校）



教職の仕事に就いて、20年以上が経ってしまいました。知らず知らずのうちに、「教員」という鎧に身を包み、「学校」という閉鎖された社会の中で過ごしていたように思います。

「学校ができることなんてほんの少しなんだよ」という言葉に、新しい気づきをいただき、少しですが鎧を脱ぐことができたように思います。カヌマ大学の学長である藤田さんに、「藤田さんの価値観を教えてください。」と質問したところ、「楽しいか楽しくないかです。」とお答えをいただきました。今まで自分が損か得かで生きてきたことに気づくとともに、「変わりたい」と思った瞬間でした。これから、自分がどう変わっていきけるかは、

自分なりの新しい価値観をもてるかどうかだと思っています。まずは、学校を離れた場所でコミュニティーを作り、新しい価値観を探していきたいと思っています。

## 『つながることで…』

野口 裕美（日光市立今市第三小学校）



「人は独りでは生きられない」最初の講義で聞いた言葉です。独りでは生きられない私たちが、幸せに生きていくために、「つながる」ことがどれだけ大切なことか、深く考えさせられました。社会には、様々な人がいます。人と人とのつながり方もいろいろです。中には寄り添うことが必要な人もいます。そういった人たちをつなげていくことも、社会教育の大切な役割だと理解しました。「小さなつながりが、生きるための大きな助力になる。」人と人をつなぐとはどんなことなのか、自分の班での振り返りの中で気付いたことの一つです。たくさんの人とのつながりを大切にしながら、子どもたちにもつながることの大切さを伝えていきたいと思っています。

## 『仲間と共に』

松本 梢（日光市立清滝小学校）



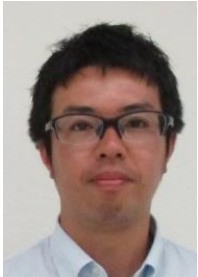
社会教育主事講習では、大学の先生や行政職員、ボランティアなど様々な立場の方々のお話を伺い、それぞれの責務や活動内容などを知ることができました。今まで私には見えていなかった世界を知ることができ、自分とは違う立場の方々も「子どもたちを共に育てる仲間」と考えるようになりました。先日、本校で行われた運動会にも、たくさんの方が来てくださり、百人を超える人々が子どもたちと一緒に清滝の伝統である和楽踊りを踊ってくださいました。まさに「地域とともに清滝プライドを発揮する運動会」でした。

これからも、学校を支えてくださる「仲間」と共に、子どもたちの夢や希望を実現するための教育活動を行っていききたいと思っています。



## 『社会教育主事講習を終えて』

吉江 徹（日光市立鬼怒川小学校）



講習を通して、学校と地域連携の動き、地域教育協議会の役割、地域連携教員の重要性など、これまであまり分かっていなかったことが理解できました。

今後は地域とのつながりを意識し、教材研究の中に「地域資源を生かす」という視点を取り入れていこうと考えています。地域の人材と触れ合ったり、地域の施設を活用して学んだりすることで、子どもたちはいつもと違った刺激を受けて成長すると思います。また、私自身にとっても、地域や人とのつながりができたり、充実した授業を行える可能性が広がったりします。

そうしたことに楽しみを感じながら、地域資源を生かした授業ができるよう、日々アンテナをはっていこうと思います。

## 『講習を経て、変わった自分』

内海 信二（日光市立大沢中学校）



社会教育主事講習を終えひと月経ち、慌ただしい毎日の中で、振り返ると「あれは夏の蜃気楼だった？」と、そんな気持ちになります。しかし、幻でなかった証拠に、ちゃんと社会教育の種が私の中に蒔かれたことを感じています。私はこれまで、社会教育・生涯教育について考えたことがありませんでした。中学校では進路指導において、ちょっと関わりがあるかなあという程度の認識でした。

今回の講習を経て、地域連携や地域づくり、担い手の育成など、学校教育の場から自分にできることは何かと考えさせられました。また、私自身が地域づくりの当事者であることにも気付かされ、これから、学んだことを地域や子ども達に還元していきたいと感じて

います。

## 『講習を通して学んだこと』

岸 万衣子（日光市立足尾中学校）



講習では、学校を中心として、意図的につながりをつくっていくことの意味やそのプロセスを考えていく上での視点などを学び、大変勉強になりました。また、ボランティアや地域づくりに関わっている方のお話はとても興味深く、その取り組みや考え方に心打たれました。

その中で村瀬孝生さんの『もし人とつながることを望むなら「自分の時間とお金を人に使う」という価値観が必要になります』という文章も紹介されました。人と人とのつながりが希薄になっている今、改めてその大切さについて学びました。学校に関わってくださっている方々の思いが地域へとつながっていくために、自分にできることは何かを考えて

いきたいと思っています。

## 『次につながる担い手づくりを目指して』

野口 一徳（日光市今市公民館）



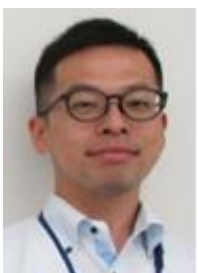
人口減少、少子高齢、災害、福祉、医療など我々の社会には喫緊の課題が山積しています。

持続可能な住民自治を改めて考えると、そこには人と人とのつながりが非常に重要です。そして人と人をつなぐ役割を社会教育の立場から担っているのが公民館です。公民館の主催教室では主体的な学びの場を提供することで人がつながりますが、現状ではここまでの仕掛けしか無いように感じています。地域の抱える課題を主体的に解決できる担い手づくりを後方支援できる仕掛けが必要だと強く感じました。

社会教育的な視点を忘れずに、子どもから大人までの担い手づくりの接着剤となるべく、できることから社会教育主事として業務に活かしていきたいと思っています。

## 『地域づくりの実践に向けて』

渡辺 幸広（日光市落合公民館）



社会教育主事講習を受講して、地域住民の主体性やつながりを育むことが地域づくりとなり、そのためには公民館事業を通じて、市民自治の意識を育むことが重要だと学びました。そして、社会教育的な視点から、地域づくりを実践するための多くのスキルを学ばせて頂きました。

今後は、地域住民の主体性を育みながら、地区行事への参加者を増やしていく仕組みづくりや、地区内の人と団体とのつながりを育む活動の他にも、地区を超えた日光市内全域でのつながりを育む活動に、公私ともに取り組んでいきたいです。

貴重な機会をありがとうございました。